

令和7年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告		
学校運営方針	<ol style="list-style-type: none"> 単位修得の支援体制の整備と具体化 <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着、出席率・修得率の向上、定通併修制度の充実 健康で、豊かな感性や倫理観、規範意識を育む教育の充実と具体化 <ul style="list-style-type: none"> 自律性の育成と規律の維持、教育相談の充実、人権・同和教育の実践 成年年齢引下げを踏まえた消費者教育、主権者教育および法教育の充実 キャリア教育の充実と具体化 <ul style="list-style-type: none"> 社会人として身に付けておかねばならない諸能力の育成 主体的な進路設計を伴った、将来の自立を促す教育の充実 特別支援教育と連携した進路指導の推進 学校における働き方改革 <ul style="list-style-type: none"> 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」に従い効率的な業務管理の実現 時間外勤務時間1か月45時間以内、1年間360時間以内を目標とする 	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ol style="list-style-type: none"> 生涯にわたって自ら意欲的に学び続け、地域社会に貢献することができる基礎学力と粘り強く努力する姿勢を育成します。 互いの人権や考えを尊重し、命を大切に作る心と行動力を育成します。 社会的・職業的自立に必要な、職業観や勤労観を育成します。 	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ol style="list-style-type: none"> 共に学び合う学習活動をとおして、生徒相互の絆を深める教育活動を行います。 学び直しを含め、基礎基本の定着を促進する丁寧な学習指導を行います。 豊かな教養を身に付けるための学校設定科目を教育課程に編成します。 地域と連携し、体験的活動を重視したキャリア教育を実施します。 コミュニケーション能力の伸長を図るため、学校行事や生徒会活動等の特別活動を行います。 	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ol style="list-style-type: none"> 自ら夢や目標を設定し、日々ひたむきに努力できる生徒。 多様な価値観や他者への思いやりを持って行動できる生徒。 集団生活のきまりやマナーを守ることができる生徒。 	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p>【成果】 教職員がチームとなって生徒に対しきめ細やかな指導を行い、生徒が安心して学校生活を過ごせるように取り組むことができた。結果として生徒のアンケートからも「本校に入学して良かった」と肯定的に回答する割合が94%を超えた。また、生徒は学校行事や進路活動を始めとする教育活動に積極的に取り組み、自己肯定感の向上や自己の将来について考えることができた。</p> <p>【課題】 生徒同士のコミュニケーションの結果、生徒間でトラブルにな</p>	(1) 基本的な生活習慣の確立	<ol style="list-style-type: none"> 挨拶や身だしなみを正し、規律ある学校生活を築くとともに、社会性を習得させ、責任感を養う。 基本的な生活習慣を身につけ、集団の中で適切な行動をとることができるようにする。
	(2) 多様な生徒への支援	<ol style="list-style-type: none"> 生徒理解・支援に向けて教職員の共通理解を図り、教育相談や特別支援教育を充実させる。
	(3) キャリア形成の意欲、態度を育成	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の進路意識の啓発。 主体的に進路設計を考え、社会人として自立できる生徒の育成。
	(4) 生徒の自尊感情や自己肯定感の育成	<ol style="list-style-type: none"> 生徒会行事や部活動への積極的な参加を促し学校生活を活性化させる。

るケースもあったことから、今後も様々な教育活動やSC、SSW、外部機関等を活用しながら生徒のコミュニケーション能力を育成していく必要がある。	(5) 基礎学力定着、学習意欲向上	① 自ら積極的に学習に取り組む態度を養い、基礎学力の定着及び向上を図る。			
	(6) 時間外勤務時間の削減	① 業務の簡素化・効率化を図る。 ② 在校時間を短縮する。			
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
基本的な生活習慣の確立	挨拶や身だしなみを正し、規律ある学校生活を築くとともに、社会性を習得させ、責任感を養う。	・ 生徒と教員間の信頼関係を築き、問題行動の未然防止に努める。 【全職員】	B	B	
		・ 他人を思いやる心を育成するとともに、生徒と教員間の信頼関係を築き、問題行動の未然防止に努める。 【全職員】	B		
		・ スマートフォンやSNSの適切な利用方法を学び、法令を遵守するように指導する。 【全職員】	B		
		・ 「MY LIFE」(生徒指導だより)を発行して、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、望ましい学校生活を確立させる。 【生徒指導部】	B		
		・ 家族や警察と連携し、事故防止のための講話や実技指導を行い自転車運転も含めた交通安全教育を実施する。 【生徒指導部】	B		
		・ 自立し自分の行動に責任を持つよう指導する。 【全職員】	B		
	基本的な生活習慣を身につけ、集団の中で適切な行動をとることができるようにする。	・ 他人への思いやりの心を育て、コミュニケーション能力の向上を目指す。 【全職員】	B		B
		・ 学校生活の中で自己理解を深め、自己肯定感の向上と、集団生活を送る上で必要な能力を身につけるよう細やかに指導する。 【全職員】	B		
多様な生徒への支援	生徒理解・支援に向けて教職員の共通理解を図り、教育相談や特別支援教育を充実させる。	・ 特別支援教育推進委員会が中心となり、教職員のニーズに応じた職員研修を実施する。 【特別支援教育推進委員会】	B	B	
		・ 個別のニーズを把握し、状況に応じて個別の指導計画を作成・周知して指導する。 【特別支援教育推進委員会】	A		
		・ SCや外部機関と連携して適切な支援のあり方を検討し、自立支援の方策を模索する。 【生徒指導部】 【特別支援教育推進委員会】	B		
キャリア形成の意欲、態度を育成	生徒の進路意識の啓発	・ 講演会、企業(学校)見学等の進路ガイダンスを通して、自己を見つめさせ、進路意識の高揚を図る。 【キャリアガイダンス部】	B	B	
		・ 個別面談や職場見学を実施し、生徒の適性や希望を把握するとともに、希望に添った進路実現を目指す。 【キャリアガイダンス部】 【各年次】	A		
	主体的に進路設計を考えさせ、社会人として自立できる生徒の育成	・ 就業体験やインターンシップなどの活動を通し、社会人として必要な諸能力を育成する。 【キャリアガイダンス部】 【各年次】	A		B
		・ 特別支援を必要とする生徒に対して、関係機関と連携しながら適切な進路指導を行う。 【キャリアガイダンス部】	B		
		・ オープンキャンパスや校外模試等を活用し、生徒の希望に添った進路実現を目指す。 【キャリアガイダンス部】	B		
生徒の自尊感情や自己肯定感の育成	生徒会行事や部活動への積極的な参加を促し、学校生活を活性化	・ 生徒会執行部の生徒が、行事の企画運営を主体的に行えるように支援する。 【生徒指導部】 【各年次】	B	B	
		・ 行事を通じて所属感や連帯感を養い、協力してよりよい学校生活を築く態度を養う。 【生徒指導部】 【各年次】	B		

	化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門委員会の活動を明確にし、活性化を図る。【生徒指導部】 ・ 部活動を充実し、心身の健全な発達を目指す。【生徒指導部】 	B		
基礎学力 定着、学 習意欲向 上	自ら積極的に学 習に取り組む態 度を養い、基礎 学力の定着及び 向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の希望、進路、学習歴等を考えながら、丁寧な履修登録指導に努める。【全職員】 	B	B	B
		<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT機器の活用や主体的・対話的な授業をとおして、生徒が意欲的に学べる環境を作る。【全職員】 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 発問の仕方や授業展開を工夫し、生徒が意欲的・主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。【全職員】 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の理解力に合わせた補助プリントや資料、視聴覚教材などを利用して、わかりやすい授業を行い、基礎学力の定着を図る。【全職員】 	B		
時間外勤 務時間の 削減	業務の簡素化・ 効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員で声を掛け合いながら業務に当たり、作業時間を短縮する。【全職員】 	B	B	B
	在校時間を短縮 する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退庁を意識し、業務を効率的に行い、ワークライフ・バランスを保つ。【全職員】 	B	B	
成果	<p>教職員は生徒の実態に合わせながら授業を工夫し、わかりやすい授業に努めた。生徒に対するアンケートでは、94%の生徒が「先生がわかりやすい授業をするために工夫している」と回答していることから、一定の成果が現れていると考える。今後も生徒が「意欲的に学べる授業」「わかる授業」を実践し、基礎学力の定着および進路実現を図っていく。</p> <p>多様な生徒に対し、担任や特別支援委員会を中心にケース会議等を利用して対応策について意見を出し合い、全職員で共通の指導を行うことができた。今後も生徒の状況を踏まえ、改善を図りながら進めていきたい。</p> <p>今年度も生徒間のコミュニケーションを原因とした生徒間トラブルがあったことから、今後も様々な教育活動やSC、SSW、外部機関等を活用しながら生徒のコミュニケーション能力を育成していく必要がある。</p>			総合評価	
				B	